

ὑπερηφανία

ヒュペレーファニア

知っておきたいキリスト教のことば (72)

傲慢 ごうまん

傲慢という言葉はマルコによる福音書の「悪徳表」の中に出てきます。またローマ・カトリック教会の七つの大罪(暴食、色欲、強欲、憤怒、怠惰、傲慢、嫉妬)の中にも含まれています。

この「傲慢」という言葉は口語訳聖書では「高慢」と訳されており、同じ意味です。日本聖公会祈祷書の司祭按手式の嘆願に、「すべての罪、高慢、虚栄、偽善、ねたみ、憎しみ、恨み、またすべての無慈悲から」、「主よ、お救いください」とこの言葉が出てきます。

つまり傲慢(高慢)であるということは、とても大きな罪に数えられているのです。ではその意味は何なのでしょう。

傲慢とは、自分や自分の能力を過大に評価することです。おごり高ぶりと言ってもいいかもしれません。

聖書の中には、ファリサイ派という人たちが出てきます。彼らは神さまから与えられた律法を細かく解釈し、一生懸命守ります。しかし律法を守ることでできない人たちを蔑み、見下していきます。

ある場面でファリサイ派の人は、「神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します」と祈ります。イエス様はこのようなファリサイ派を「高ぶる者」と呼び、彼は低くされるのだと言います。

しかしファリサイ派と同じような思いを、わたしたちも持つことがあります。他の人を見下してしまったり、自分は何か特別な人間なのだと思ってしまう。

傲慢の対義語は謙遜です。わたしたちが心から謙遜になれたときに初めて、自分は小さな存在であり、神さまから生かされているということがわかるのです。

次回は「克己」です。お楽しみに。



「ファリサイ派と徴税人」
ギュスターヴ・ドレ

(1832~1888年)

みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。

(マルコによる福音書7章21~23節)

